

令和7年度

「運営に関する計画」(最終)



小中一貫須賀の森学園  
大阪市立西淡路小学校

令和8年2月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

一人一人の違いを認め合う集団を育成し、違いを認め合い、自分と周りの人を大切にする態度を養うために、「いじめ(いのち)について考える日」や「平和集会」、「異学年交流」などの機会を設定・実施してきた。また、多文化共生教育についての課内実践も計画的に実施し、あらゆる教育活動においても、一人一人の違いを認め合う集団育成と、自分と周りの人を大切にする態度を養うことに重点を置いてきた。取組の結果、令和6年度末学校教育アンケートの「自分にはよいところがある」には85.2%の児童が肯定的に答え、教育実践の結果が実りつつある。しかし、令和6年度小学校学力経年調査における「自分にはよいところがある」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は大阪市と比べてやや低かった。「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合が多く、自信をもって自分自身を肯定できるまでには至っていない。本年度もこれまでの取組を継続しながら、児童の自己肯定感を高める取組に更なる工夫をしたい。

全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長するために、不登校傾向にある児童の支援と不登校の解消は、本校でも大きな課題である。学級担任、人権教育主担者を中心として、チームで不登校解消に取り組みたい。

学力の向上について、数年来、基礎・基本の定着に重点を置いて、朝学習の機会を充実させ、「振り返りプリント」や「課題の積み残し0」への取組を進めた。しかし、令和6年度の小学校学力経年調査では、学年が上がるにつれて大阪市の平均を下回る教科が多くなる結果となった。これまで研究を進めてきた「誰一人とりのこすことなく全ての児童が主体的に学習に参加する授業」の重要性を再確認し、教員の授業力の研鑽に取り組み、本校児童のさらなる学力の向上をめざしたい。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

(令和5年度 81% 令和6年度 84.6% 令和7年度 84.4%)

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現に関する項目の平均正答率を、令和3年度より3ポイント増加させる。

(令和3年度 56.45% 令和4年度 49.2% 令和5年度 52.7%  
令和6年度 54.55% 令和7年度 53.1%)

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 令和7年度末の校内調査の「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

(令和5年度 92% 令和6年度 92.9% 令和7年度 95%)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R5年度 78.7% R6年度 77.5% R7年度 74.6%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R5年度 3% R6年度 4.1% R7年度 3.1%)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の人数を増加させる。(R5年度 3人改善 R6年度 6人改善 R7年度 3人改善)
- 年度末の校内調査における「自分にはよいところがある」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。(R5年度 48.1% R6年度 53.6% R7年度 46.6%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。(R4年度 37.2% R5年度 44% R6年度 38.3% R7年度 33.1%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。  
R7年度（3年 国0.89 算0.86 4年 国1.01→1.06 算1.04→1.10  
5年 国0.99→0.98 算1.01→0.90 6年 国0.99→0.89 算0.99→0.84）
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R5年度 75% R6年度 80.3% R7年度 83%)
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。(R5年度 68% R6年度 64% R7年度 66.4%)
- 年度末の校内調査における「宿題以外の学習(自主学習も含む)をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R5年度 90% R6年度 88.5% R7年度 86.3%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。(R6年度 90% R7年度 88% 学級休業のため)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(時間外勤務時間45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下)を満たす教員の割合を昨年度以上にする。(R5年度 41% R6年度 59% R7年度 66.6%)
- 年度末の校内調査における「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。(R5年度 92% R6年度 92.9% R7年度 95%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

##### 中期目標について

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は84.4%となり、目標には0.6%届かなかった。

##### 年度目標について

○いじめ防止委員会（人権推進委員会）を毎月行い、児童や家庭の状況について情報を共有し、支援について検討することができた。しかし支援を要する児童は年々増加し、課題も多様化しているため一人一人への支援が届きにくくなってきている。いじめについて考える集会では、児童が日常生活の中で起こるいじめについて、劇や動画で啓発する姿が見られ校内でも定着してきた。

○児童や家庭の実態に合わせて、不登校児童の支援を行ってきた。担任や担当の教員が家庭訪問を繰り返し、家庭と学校が協力できるように努めている。不登校児童の在籍比率は3.1%となり、昨年度と比較すると減少している。支援を続けた結果、学校へ通えるようになった児童や別室での学習を進められるようになった児童もいる。支援をしたからといってすべてが改善に向かうわけではないが、支援を止めないという教員の意識を共有することが必須である。

○児童会活動やたてわり班活動、各学年の人権教育を行うことで一人一人のちがいを認め合う集団作りを行った。社会見学やゲストティーチャーとの学習の場を設定し、様々な立場の方々と学習を行うことができた。しかし子どもたちの自尊感情の育成は充分とは言えない。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### 中期目標について

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現に関する項目の平均正答率を、令和7年度より53.1ポイントとなり令和3年度より3.3ポイント下がった。

##### 年度目標について

○すべての学年で、対話を取り入れた学習を行った。研究授業も年間4回、対話に焦点を当て行うことができた。朝の会のスピーチを行ったり、授業の中でペアやグループでの交流の時間を設定したりすることで、自分の意見を表現する児童は増えている。今後は対話の質に視点を当て、目的意識を持った話し合いの場が設定できるようにする。

○朝学習の取り組みで、自分の考えをまとめて書く力の定着を図った。3年生以上の学年で受験した漢字検定の取り組みでも検定に向けて自主的に学習する様子が見られた。しかし、高学年になるにつれて国語科、算数科ともに標準化得点が下がっていく傾向がある。

○外国語についてはC-netや中学校の英語担当教員と連携したことや専科の教員が熱心に教材を準備し授業を行うことができた。子どもたちも楽しみながら学ぶことで主体的に学習に参加できている。

○運動については、休み時間には多くの児童が外で体を動かす様子が見られる。運動に慣れ親しむ取り組みとして、委員会が主体的になわとび週間やかけあし週間を実施した。

○自主学習については高学年になるにつれて数値が下がってしまう傾向がある。中学校への進学に向けてもテストに向けて自分で計画を立てて学習を進める習慣を定着させるための取り組みが必要である。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### 中期目標について

○令和7年度末の校内調査の「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は95%だった。

##### 年度目標について

○学習の様々な場面でタブレットを使用し、調べ学習やプレゼンテーションを行うことができるようになってきている。今後朝学習や家庭学習にタブレットドリルの活用も推進していく。また、学年に応じて必要なスキル等をまとめ系統立てて取り組んでいく必要がある。

○放課後の会議や学校行事を精選することによって「ゆとりの日」を週に1回以上設定することができた。教職員の時間外勤務時間についても基準1を満たす教員の割合も上昇し、大阪市の平均時間と同等になっている。

○日常的にタブレットに触れる機会も増え、授業やドリル学習にも積極的に使用した。また、アプリを使ってスライドにまとめたり、プレゼンテーションを行ったりするなど、タブレットの操作にも慣れてきた。

## 大阪府立 (西淡路小学校) 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>○ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがある」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号1-1 いじめへの対応】</p> <p>○ 「いじめについて考える日」や「いじめアンケート」の実施によるいじめの未然防止、早期発見・解消の取組を徹底する。</p> <p>○ いじめ防止委員会（人権推進委員会）を実施し、児童の生活の様子、いじめや暴力行為等について情報を共有し、改善に向けて方向性を明確にする。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内のいじめアンケートを学期に1回実施し、認知したいじめについて話を聞き、解消した割合を100%にする。</li> <li>・ 月に1回いじめ防止委員会を実施する。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号1-2、不登校への対応】</p> <p>○ 家庭や地域と連携を図り、登校を促す支援を行う。</p> <p>○ 登校しやすい学校環境を整え、児童の支援体制を充実させる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内調査において、新たに不登校になる児童を増やさないよう家庭との連携に努める。</li> <li>・ 校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</li> </ul>	

<p>取組内容③【基本的な方向番号 2-2 2-3、人権を尊重する教育の推進】</p> <p>○ 各学年の教科等に合わせて人権学習を計画し、ゲストティーチャーとの授業や体験的な活動を通して、一人一人が違いを認め合い自信をもって学校生活を送れるようにする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権学習やゲストティーチャーとの学習を計画し実施する。</li> <li>・ 学校生活アンケートを実施し、「自分にはよいところがある」に対して肯定的な回答を85%以上にする。</li> </ul> <p>学校生活アンケートを実施し、「将来の夢や目標がありますか」に対して肯定的な回答を89%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向番号 1-5、防災・減災教育の推進】</p> <p>○ 防災・減災教育の年間計画を見直し、避難訓練(引き渡し訓練も含む)を実施する。</p> <p>○ 自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を育成する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練を年5回以上実施する。</li> <li>・ 学校生活アンケートを2回実施し、「安全な避難方法について考えることができましたか」の項目で、前期、後期ともに肯定的な回答を90%以上にする。</li> </ul>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向番号 1-1 いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめアンケートは学期に1回実施し、認知したいじめについて聞き取りを行い、内容に応じて担任をはじめ教職員が一丸となって対応することができた。また、必要であれば家庭への連絡を行うようにしてきた。</li> <li>・ 1学期のいじめアンケートで認知したいじめについて児童間での話し合いによる解決を進めることができた。また、解消に向けて今後起きないための話し合いや当該児童がクラスに戻れるように努めてきた。</li> <li>・ 毎月行っているいじめ防止委員会（人権推進委員会）では、気になる児童やトラブルがあった児童等について職員間で共有し、改善に向けて早期に対応できるように話し合い取り組むことができた。</li> <li>・ 代表委員会（いじめ防止委員）では、どのようなことがいじめに繋がるのか話し合い、劇を通して全校児童に伝えていくことができた。</li> </ul> <p>取組内容②【基本的な方向番号 1-2、不登校への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登校が難しい児童の実態に応じて、担任や担当の教員が家庭と繋がりを持ち、登校支援やオンライン学習など対策を講じて指導や支援を行うことができた。それにより、学校行事に参加したり別室登校できるようになったりと、登校に前向きになれる児童が増えた。</li> <li>・ 校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的に回答する児童は、84%と目標の数値を達成していないが、児童が学校生活を過ごしやすくするために、自分の考えや思いを学校のきまりやクラスの取り組みで形にできるように進めてきた。</li> </ul>	

**取組内容③【基本的な方向番号 2-2 2-3、人権を尊重する教育の推進】**

・各学年で、社会見学やゲストティーチャーによる学習を計画、実施することができた。また、東淀川ドコドコドンの活動や希望の家との交流などによる学習を計画的に実施することもできた。多文化共生の取り組みとして、「エンターテイメントエキスポ」「グローバルウィーク」「子ども会・わくわくワールド発表会」「みんなよっといでデー」など様々な音楽や遊びと触れ合うことを通して、多様な価値観や文化の違いを知り、相互理解の思いを育むことができた。地域の歴史や取り組みを知ったり、世界情勢を知り平和について考えたりするなど学習を広げ、深めることができた。

・学校生活アンケートにおける、「自分にはよいところがある」の肯定的に回答する児童は 82.2%と目標には達していないが、児童会による「サンキューカード」や各学年のお互いの良いところを認め合う活動などを通して、一人一人が自信をもって過ごせるように計画的に実施していくことができた。「将来の夢や目標がありますか」の肯定的に回答する児童は 89%と目標の数値を上回っている。

**取組内容④【基本的な方向番号 1-5、防災・減災教育の推進】**

・避難訓練は、一学期「引き渡し訓練」「火災における避難訓練」「防犯訓練」二学期「地震・津波における避難訓練」三学期「休み時間における災害時の避難訓練」の 5 回を計画し実施することができた。どの訓練においても、児童が安全な避難方法を考えられるように指導を充実させていくことができた。

・学校生活アンケートにおける、「安全な避難方法について考えることができましたか」の肯定的に回答する児童は 94.2%と目標を上回っている。

次年度への改善点

**取組内容①【基本的な方向番号 1-1 いじめへの対応】**

・今年度同様、こころの天気を活用したり、児童の様子を把握したりして、いじめや暴力行為等を未然に防止できるように努めていく。

**取組内容②【基本的な方向番号 1-2、不登校への対応】**

・今年度同様、登校が難しい児童の支援体制を引き続き整え、家庭と連携を図りながら登校を促す支援を行う。また、児童が学校生活を過ごしやすく送るためには、どのような取り組みを行っていけばよいのか検討していく必要がある。

**取組内容③【基本的な方向番号 2-2 2-3、人権を尊重する教育の推進】**

・人権学習やゲストティーチャーとの学習の計画を実施できるように進め、児童が自己肯定的になれるような指導方法や取り組みを検討しながら進めていく必要がある。

**取組内容④【基本的な方向番号 1-5、防災・減災教育の推進】**

・避難訓練の内容が形式的にならないように今年度の反省を踏まえ取り組んでいく必要がある。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>○ 年度末の校内調査における「宿題以外の学習(自主学習も含む)をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号4-2、「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年で授業研究に取り組み、友だちと共に「主体的・対話的で深い学び」ができるよう推進する。</li> <li>○ 各教科で、考え、表現する能力の向上を図る。</li> <li>○ 学級文庫の充実に努め、毎週金曜日に、朝の10分間読書を行う。また、週4回の図書館開放を行い、読書に親しむ機会を増やす。</li> <li>○ 家庭で取り組める学習内容を提示したり、アドバイスをしたりしながら、児童が意欲的に宿題以外の学習にも取り組めるようにする。また、家庭学習の大切さを家庭に啓発する。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施計画に従い各学年で年間1回以上の国語科における対話力の育成を意識した授業研究に取り組む。また、メンター研修を年間6回以上設定したり、個人での授業研究に取り組んだりする。授業では、ペアやグループによる効果的な学習を全学年1日に1回以上、取り入れる。学期に1回の授業アンケートで、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を4</li> </ul>	

<p>5%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週2回の朝学習で、思考ツールを使用し、自分の考えを整理して、文章に表現する。その文章を活用し、スピーチなどの表現活動につなげていく。そして、どの教科でも思考ツールを使って自分の考えを整理できるようにしていく。</li> <li>年度末の校内調査における「週に1回以上読書をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>年度末の校内調査における「宿題以外の学習(自主学習も含む)をしていますか。」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。また、毎月の学年だよりで、つけてほしい学習の力を紹介し、家庭学習の助けとする。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号4-3、英語教育の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年で週2回の英語タイム(短時間学習)を実施する。</li> <li>C-NETや中学校の英語教諭とのチームティーチングを実施する。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> <li>中学校と連携を取り、週に1時間、3・4・5年生の外国語の授業で、コミュニケーションアクティビティを取り入れる。</li> <li>C-NETと連携を取り、週に1時間、6年生の英語の授業でチームティーチングを行う。</li> </ul>	A
<p>取組内容③【基本的な方向番号5-1、体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの体力向上を目指した朝会を取り入れ、体づくりへの意識を高める。</li> <li>かけ足週間やなわとび週間を設けて、体力・運動能力の向上を図る。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期に2回以上、運動委員会や教員から提案する運動朝会を取り入れ、体を動かす機会を持つ。</li> <li>年度末の校内調査における「運動するのは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向番号4-2、「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究やメンター研修など計画的に取り組めた。授業では、ペアやグループの伝え合いや話し合いを取り入れ、自分の考えを伝える場を積極的に設定することができた。また、振り返りを行うことで、自分の考えの深まりを確認することができた。年度末の授業アンケートで、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は63%で、目標を上回った。</li> <li>朝学習で思考ツールを活用して自分の考えを整理することを繰り返し行うことで、各教科でも思考ツールを積極的に使うことができた。自分で思考ツールを選んで、考えをまとめる手立てとする児童も増えてきた。</li> <li>図書館開放や家庭への読書の啓発などで、児童が読書をする機会を増やすことができた。また、読み聞かせを積極的に行っていることも、興味をもち、本を手にする児童が増えてきている要因になった。国語科においても、単元の関連図書を学級文庫に入れる</li> </ul>	

ことで、図書と教科とのつながりを持つことができた。年度末の校内調査における「週に1回以上読書をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は79.8%と目標を下回った。大半の学年は、8割以上の割合を占めたが、8割を下回っている学年もあった。

- ・年度末の校内調査における「宿題以外の学習(自主学習も含む)をしていますか。」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90.7%と目標を上回った。要因としては、児童同士でお互いの自主学習の内容を見合うことで、友達のよいところを参考にして学習を進めたり、自分も頑張ろうとする意欲がもてたりしたことによると考える。

#### 取組内容②【基本的な方向番号4-3、英語教育の強化】

- ・昨年度から進めている教材整理ができており、それを授業で効果的に使用することで指導しやすく、児童の活動の時間を十分にとることができた。年度末の校内調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は90.1%と目標を大きく上回った。
- ・中学校教諭と小学校教諭と一しょに、教材の準備をしたり打ち合わせをしたりして連携が取れていた。また、中学校教諭の体験談から世界の文化に触れたり、児童同士のコミュニケーション活動も積極的に取り入れたりすることができた。
- ・C-NETと連携を取り、英語の授業でチームティーチングを行った。6年生の他、5年生、4年生でもC-NETを活用することができた。

#### 取組内容③【基本的な方向番号5-1、体力・運動能力向上のための取組の推進】

- ・運動朝会を行い、体を動かす機会を設けて体づくりの運動なども紹介することができた。また、砂場の整備、一輪車の設置など環境設備も整うよう勧めることができた。なわとびやかかけあし週間を設定した。カードや動画を使って、児童の意欲を向上させ、寒い時期でも外に出て、体を動かす機会を作ることができた。年度末の学校アンケートにおける「運動するのは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は87.5%と目標を上回った。

### 次年度への改善点

#### 取組内容①【基本的な方向番号4-2、「主体的・対話的で深い学び」の推進】

- ・「していない」と回答した児童ができるような手立てを考える。
- ・今までやってきた話し合いの型を継続していくとともに、より活発な話し合い活動にするための具体的な手立てについて、教員研修を進める。
- ・全クラスに国語辞典を設置する。低学年から語彙力を増やしたり、言葉の意味理解が進むよう取り組む。

#### 取組内容②【基本的な方向番号4-3、英語教育の強化】

- ・新しい教材の購入
- ・絵本やその他の教材を短時間学習で活用できるように、教員研修を進める。

#### 取組内容③【基本的な方向番号5-1、体力・運動能力向上のための取組の推進】

- ・体育科の指導を、1年生～6年生まで系統立てて計画する。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○ 1年生は2学期から、2～6年生は5月からの授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(時間外勤務時間45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下)を満たす教員の割合を昨年度以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。</p>	A
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号6-1、ICTを活用した教育の推進】</p> <p>○ ICTを効果的に活用した授業実践を行う。</p>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週に3回以上児童が端末を活用できるように、情報活用能力を習得・活用する授業の年間指導計画を立てる。ならびに、情報活用能力到達目標を立てる。</li> <li>学期と長期休業(夏・冬)に各1回以上をめやすに、年間で5回以上の研修を実施し、児童や教員が広く取り組みやすい環境を整える。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号7-1、働き方改革の推進】</p> <p>○ 教員の長時間勤務の解消を図る。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙の資料の印刷を減らして会議資料のデジタル化に取り組んだり、会議に参加する人数を減らしたりすることで、会議の時間短縮や効率化を図る。</li> <li>校務のデジタル化を推進したり、スクールサポートスタッフを活用したりすることで仕事の効率化を図る。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>年度目標の指標はすべて達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>端末の活用の割合は、学級休業をしたクラスが少しあるため昨年度より若干下がったものの、今年度も指標を大きく超えることができた。心の天気の入力や、デジタルドリルの活用が数値として表れた。担任の声かけはもちろんだが、担外の先生の授業でも動画の活用や、テストや資料としての活用など、工夫が見られた。</li> <li>残業時間については、勤務時間内に効率的に勤務していることもあるが、会議や打ち合わせが設定されていない日でも、教職員間で密に連携を取ろうと声をかけあっていることも効率的に働いている要因と考えられる。一方で懸念されることだが、端末の持ち帰り・テレワーク等により、学校ではなく自宅等で資料作りや事務処理をしていることもある。残業ではないが、本当に業務時間が減っているのかは疑問が残る。</li> </ul>	

- ・ 児童の「端末を使った学習は楽しいか」のアンケートに関しては、先にも述べた通り、教職員の工夫の成果が表れてきているものだと考える。中間評価では未達だったが、最終では達成することができた。

#### 取組内容①について

- ・ 年間指導計画・到達目標…ICT支援員の助言もあり、年度内での作成と共有を目指している。あくまで目安にしてほしいものであり、その学年や児童にあった学習の進捗で実施や調整を行いたい。
- ・ 研修は年1回に留まってしまった。研修となると実施する方も、受ける方も全員必須なのかと構えてしまい、内容の検討も日程の調整も後回しにしてしまい、実施できなかった。

#### 取組内容②について

- ・ 前年に引き続き、今年度も会議の効率化を図り、実際に取り組むことができた。
- ・ デジタル化・スクールサポートスタッフの活用による仕事の効率化も成功していると言える。
- ・ 毎月の残業時間は、前年度よりも改善されていた。中間評価以降も、月45時間以上の時間外勤務をおこなわないよう、全教職員が努めていた。

### 次年度への改善点

#### 年度目標・取組内容①において

- ・ 児童の端末の活用は、教員がどう活用させるかと、児童が学習にどう使うかによる。視聴覚部も考えているが、生活安全部・児童会も学校のルールを見直している。連携を図り、よりよい端末の活用方法を考えていきたい。なお、来年度学力学習状況調査の質問紙はCBT(PCで入力)でおこなうようだ。テスト自体もCBT化になっていくので、タイピングは必須である。
- ・ 全国のSNSの事案、本校でもトラブル等があり、情報モラルの年間指導計画も作成する必要がある。また、研修ではなく情報交換会を開催することで、定期的に交流を図りたい。テーマとしては、持ち帰りのルール・「総合」の活用・児童の到達目標達成に向けて・学校内でのPC使用のルール・googleのアプリやクラスルーム／インストール済みのアプリ／CANVA／等の活用など検討事項は多岐にわたる。

#### 取組内容②において

- ・ 4月5月の時間外勤務の削減は次年度も課題となりうる。
- ・ 業務の効率化は継続して必要だが、学校以外でも仕事の準備をしている時間は多い。連携や分担をすることで効率化を図りたい。

1 総括についての評価

須賀の森学園の教職員にも健康的で働きやすい職場環境になってほしい。そんな中で、教員の時間外勤務時間が減ってきていることはうれしく思う。しかし一方で、病気休業で休職する教職員がいることも課題となっている。教職員が健やかに働き甲斐をもって働けるための組織づくりを進めていくことは急務である。

不登校やいじめなど学校が抱える課題は年々多様化していると思う。そんな中でも、人権教育を基軸とし、集団育成を行っていくことが、改めて今の時代に求められている。小中一貫校として、だれひとり取り残さない集団育成に全力で取り組んでほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R5年度 78.7% R6年度 77.5% R7年度 74.6%)

毎学期いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めてもらっていることはよくわかる。啓発も教員から子供に対して行うものだけではなく、子供たちが主体となっていじめ防止を呼びかけている取り組みは大変すばらしいと思う。認知したいじめを重大な事案にしないよう、今後も徹底した組織的な支援が必要である。現在のいじめは校内で発見できるものだけではなく、SNS等でのものもあり、複雑化している。学校安心ルールを広く周知するなど、保護者にも学校の取り組みや対応を理解していただき、協力していただけるように推進していく必要がある。

年度目標：年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R5年度 3% R6年度 4% R7年度 3%)

不登校といっても、家庭によって要因は様々である。学校で何かあったから不登校になるというより、本人の特性や家庭での生活に起因する不登校が圧倒的に多いのではないか。また家庭環境もひとり親家庭や共働きの家庭が多くなっており、保護者も朝学校に我が子を送り出せないまま、仕事に行ってしまうという家庭も増加している。学校の教員だけでこのような家庭にアプローチし、状況を改善していくのは非常に困難であると思われる。SSRの設置や生活指導支援員の活用など、教育委員会の事業を活用し子供たちの支援が途切れないようにしてほしい。教職員の負担が増えてしまうのは、働き方改革が課題となっている現代ではいかなるものかとも思う。

3 今後の学校園の運営についての意見

昨今、いじめや不登校の問題、外国籍の児童数の増加等、学校が対応しなければならない課題が多すぎるように思う。そのうえ学力・体力の向上を迫られICTの導入をはじめ、様々なものが学校に入ってきている。教員は子どもと触れ合い、お互いの信頼関係のもと、授業を大切にを進めていくことにやりがいを感じるべきである。しかし、様々な対応に疲弊し、職場を去る教職員も毎年のように出ていることが本当につらいことである。教職員の皆さんが、明るく、やりがいをもって、笑顔で子どもの前に立つ。そんな小中一貫校を築き上げてほしい。今後も教育の目的を見直し、子ども主体で地域に開かれた須賀の森学園の姿を、地域も一緒に模索していきたい。